



©おなみに...
 フジア各地からたくさん兄弟印が発見されています。それぞれつまみの形や素材が違って、縷の色と合わせ、印章をもった人の身分や立場がわかるようになっています!



一度封泥をすると...
 ・中身を見るには、封泥を壊さないといけない
 ・一度壊したら、同じ印でしか同じ封泥は作れない
 →封泥を見れば、中身が見られたかどうかわかる!

封泥は文書の秘密を守るカギの役割!

当時の泥の上から印を押し、痕をつけて「封印」していったんだ

金印の使われ方は、「封泥」!
 国宝「金印」の使われ方は、いまの印鑑とは違ふよ。どんな使われ方だったのか見てみよう!

金印の使われ方は、「封泥」!
 国宝「金印」の使われ方は、いまの印鑑とは違ふよ。どんな使われ方だったのか見てみよう!

福岡市博物館の常設展示室では
 実物の国宝「金印」が展示されているよ。
 もっと詳しく知りたい人は
 常設展公式図録などを見てみてね!

きんいん 金印
 ポータブル 図鑑

2020年6月 金印ポータブル図鑑 (さんいんぼーたぶるずかん) 発行: 福岡市博物館 編集: 三角徳子 (みすみのりこ)

国宝の「金印」ってどんなものなのか、いっしょに見ていこう!

↑左横からみた形

つまみは、とぐろを巻いたへびの形!
 よーく見るとへびの目があるよ。

金印へびのななこちゃん

国宝「金印」ってなに?

国宝「金印」は福岡市東区の志賀島で発見された古代の印章(ハンコ)だよ。
 大きさは? 重さは? 形は? どんな特徴があるのかみていこう!

108gの重さは
 10円玉24枚ぶん
 とほぼ同じ!

約2.35cm

10円玉硬貨とほぼ同じ大きさ
 最もコンパクトな国宝としても有名です!

金印に彫ってある漢字は
 「漢(の)委(の)奴(の)國(の)王(の)」です。
 「漢」は後漢(25~220年)を指します。
 当時、日本は委(倭)という名前と呼ばれていました。
 奴國(国)は福岡地域に存在した国の名前です。

「漢」は他の字の
 2倍の大きさ!
 ↓
 漢が大きな力を持っていたことを意味しているよ

↑左横からみた形

つまみは、とぐろを巻いたへびの形!
 よーく見るとへびの目があるよ。

↑上から見るとこんな感じ

ちょうど顔のあたり

そんな金印は、いつ、どこで、どうやって発見されたのでしょうか...

金印の発見!
 江戸時代。福岡市東区の志賀島で偶然見つかったんだ。
 その後、いろんな人が金印のことを研究し、どんなものなのか明らかになってきたよ。
 金印の価値を最初に認めた人は
 福岡の儒学者、亀井南冥さんだよ。
 南冥さんは金印について調べたことを『金印并』
 という本にまとめ、黒田のお殿様に献上したんだ!

↓百班兵衛口上書「金印が発見された時のことが記録してある」

天明4(1784)年、お百姓だった兵衛さんの田んぼで
 たまたま見つかったと伝えられているんだ。発見場所だと
 される志賀島の叶崎には、現在金印公園ができています。
 ↓金印公園(きんいんこうえん)

そんな「金印」はどのように使われたのかな?

南冥さんは、中国の歴史書『後漢書』東夷伝をもとに
 志賀島の金印が、建武中元2(57)年に後漢の皇帝
 光武帝から与えられたものであると書いたんだよ。
 『後漢書』には「印綬」という
 言葉で金印のことが記述して
 あるんだ。綬とは印に結び
 つけられていた幅広のひもだよ。
 考えられているよ。

綬

南冥さんは、中国の歴史書『後漢書』東夷伝をもとに
 志賀島の金印が、建武中元2(57)年に後漢の皇帝
 光武帝から与えられたものであると書いたんだよ。